

平成23年6月9日

北海道開発局

二風谷ダムの堆砂状況 【参考資料1】

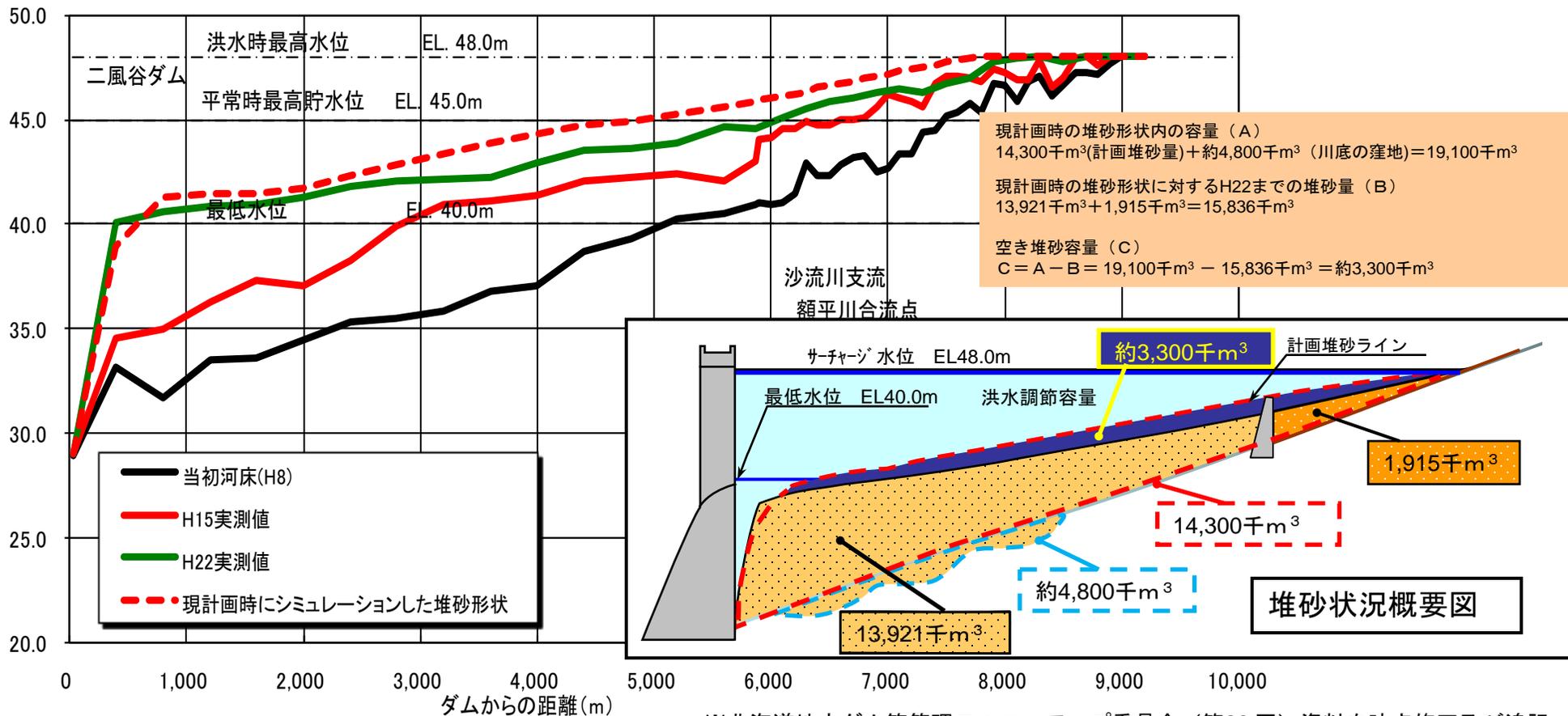
二風谷ダムの堆砂状況①

平成15年以降の堆砂形状は、現計画時にシミュレーションした堆砂形状に近づきつつある。
 現時点において洪水調節容量、利水容量は確保されている。
 平成22年度末では計画堆砂量まで約3,300千m³の余裕がある。

二風谷ダム平均河床の変化

標高(m)

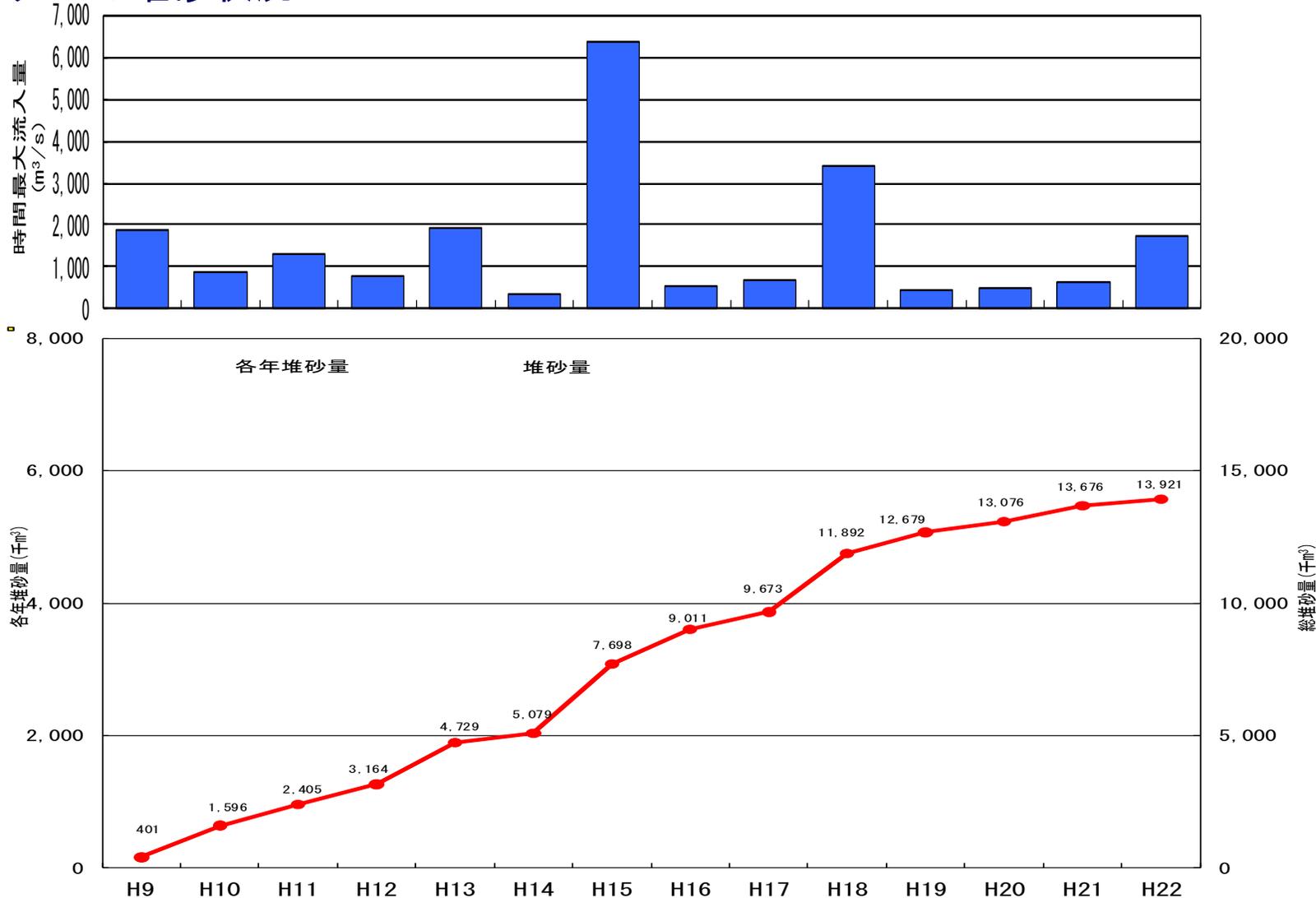
沙流川縦断経年変化図(平均河床高) 貯砂ダム



二風谷ダムでの堆砂状況②

平成22年度時点での貯砂ダム下流の貯水池内の堆砂量は、13,921m³となっている。

◆二風谷ダムの堆砂状況



※北海道地方ダム等管理フォローアップ委員会（第26回）資料を時点修正及び追記

二風谷ダムの堆砂状況③

基本計画変更後の計画堆砂量(14,300千 m^3)には、ダム建設時の骨材採取等による川底の窪地は含まれていない。貯砂ダム下流の貯水池内の堆砂量13,921千 m^3 はこの窪地に堆積した土量約4,800千 m^3 も含めた堆砂量である。

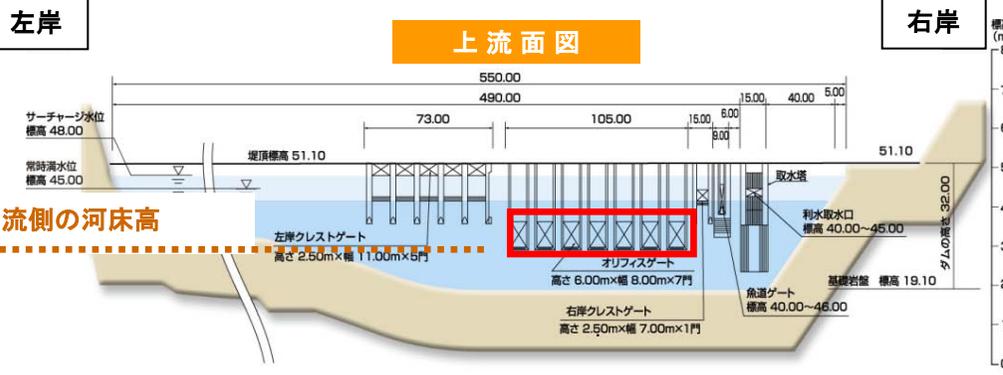


○ : 窪地

(H7.9.13撮影)

二風谷ダムのオリフィスゲートは下流の河床とほぼ同じ低い位置に設置しており、年間約1/3はこのゲートから放流していることから、土砂が流出しやすい構造となっている。

■二風谷ダムゲートの位置と運用



二風谷ダムオリフィスゲート稼動実績 (年間約1/3の期間オリフィスゲートを開けている)

	01月	02月	03月	04月	05月	06月	07月	08月	09月	10月	11月	12月
H09												
H10												
H11												
H12												
H13												
H14												
H15												
H16												
H17												
H18												
H19												
H20												
H21												
H22												

※着色部はオリフィスゲートが開いていた期間 ※室蘭開発建設部ホームページを時点修正及び追記

平成15年以降の堆砂形状は、現計画時にシミュレーションした堆砂形状に近づきつつある。
 現時点において洪水調節容量、利水容量は確保されている。
 平成22年度末では計画堆砂量まで約3,300千m³の余裕がある。